

齒科衛生士國家試驗出題基準

一 人体（歯・口腔を除く。）の構造と機能

出題方針：①人体の構造・組織の基本的知識について出題する（解剖学分野）。

②人体の機能、構成成分の基本的知識について出題する（生理学、生化学分野）。

I 人体の構造

1 細胞・組織・器官

- A 人体の基本構成
- B 器官
- C 組織
 - a 上皮組織
 - b 支持組織
 - c 筋組織
 - d 神経組織
- D 細胞
 - a 細胞膜
 - b 細胞内小器官
 - c 細胞分裂
- E 遺伝子と遺伝情報

2 呼吸器系

- A 呼吸器の構造
 - a 鼻腔
 - b 咽頭・喉頭
 - c 気管・気管支
 - d 肺

3 循環器系

- A 心臓
 - a 心筋
 - b 構造
- B 血管系
 - a 動脈
 - b 静脈
- C リンパ系
 - a リンパ循環
 - b リンパ管とリンパ節

4 神経系

- A 神経細胞と神経組織
 - a 神経細胞
 - b 神経組織
 - c 神経膠細胞
- B 中枢神経系
 - a 脳
 - b 脊髄
- C 末梢神経系
 - a 脳神経
 - b 脊髄神経
- D 自律神経系

5 運動器系

- A 骨格
 - a 骨の形態、構造
 - b 骨の形成・吸収・改造（軟骨内骨化・膜内骨化を

含む）

- c 頭蓋
- d 脊柱
- e 胸郭
- f 上肢・下肢
- B 骨の連結
- C 筋
 - a 筋の形状
 - b 筋の起始・停止
 - c 骨格筋
- D 姿勢
 - a 体位

6 感覚器系

- A 特殊感覚器の構造
 - a 視覚器
 - b 聴覚器
 - c 平衡器官
 - d 嗅覚受容器
 - e 味覚器
- B 一般体性感覚
 - a 皮膚の構造
 - b 漿膜と粘膜の構造
 - c 皮膚感覚の種類と受容器
 - d 深部感覚の受容器

7 内分泌系

- A 内分泌器官

8 消化器系

- A 消化器系の構造
 - a 口腔
 - b 咽頭
 - c 食道
 - d 胃
 - e 小腸
 - f 大腸
 - g 肝臓・胆嚢
 - h 膵臓

9 泌尿器系

- A 泌尿器系の構造
 - a 腎臓
 - b 尿管・膀胱・尿道

10 生殖器系

- A 女性生殖器系
- B 男性生殖器系

11 発生

- A 受精と着床
- B 胚葉
- C 胎児の発育

II 人体の機能・構成成分

1 人体の構成成分

- A 体液の組成と恒常性維持
- B 無機質
- C 有機質
 - a タンパク質の構造
 - b 糖質の構造
 - c 脂質の構造
 - d 核酸の構造

2 細胞

- A 細胞の機能
 - a 細胞膜
 - b 細胞内小器官
- B 遺伝子とタンパク質
- C 細胞分裂
- D エネルギーの代謝
- E 物質代謝
 - a タンパク質の代謝
 - b 糖質の代謝
 - c 脂質の代謝
 - d 核酸の代謝
- F 酵素の種類と作用（補酵素を含む）

3 血液

- A 血液の組成
 - a 赤血球
 - b 白血球
 - c 血小板
 - d 血漿
- B 血液型と輸血
 - a 血液型と抗原抗体反応
 - b 輸血
- C 血液凝固・線溶

4 循環

- A 血液循環
 - a 心臓（刺激伝導系、心電図を含む）
 - b 血管
 - c 血圧
 - d 循環調節
- B リンパ循環

5 呼吸

- A 呼吸運動
 - a 吸息と呼息（呼吸筋の働きを含む）
 - b 肺気量
- B ガス交換（赤血球におけるガス交換を含む）
- C 呼吸の調節

6 筋

- A 骨格筋
- B 心筋
- C 平滑筋
- D 筋の収縮

7 神経

- A 神経細胞（ニューロン）
- B 興奮の伝導

- C シナプス伝達
- D 末梢神経系
 - a 体性神経系（脳・脊髄神経）
 - b 自律神経系（交感・副交感神経）
- E 中枢神経系
- F 神経伝導路（反射、上行性・下行性伝導路を含む）

8 感覚

- A 感覚の基本的性質
- B 特殊感覚
 - a 視覚
 - b 聴覚
 - c 平衡感覚
 - d 嗅覚
 - e 味覚（歯・口腔の構造と機能で出題する）
- C 体性感覚・内臓感覚
 - a 皮膚感覚
 - b 深部感覚
 - c 内臓感覚

9 消化吸収

- A 胃における消化
 - a 胃液
 - b 胃の運動
- B 腸における消化と吸収
 - a 膵液
 - b 胆汁
 - c 腸の運動
 - d 腸における吸収
- C 消化管ホルモン
- D 排便

10 排泄

- A 尿の生成と体液の調節
- B 排尿

11 体温

- A 体温の調節
 - a 体熱の産生
 - b 体熱の放散（発汗を含む）
- B 発熱・解熱

12 内分泌

- A ホルモンによる恒常性維持
- B 内分泌器官とホルモン

二 歯・口腔の構造と機能

出題方針：①歯・口腔の構造及びその周囲組織についての知識を出題する（口腔解剖学分野）。
②歯・口腔の機能と組成についての知識を出題する（口腔生理学、口腔生化学分野）。

I 歯・口腔の構造

1 口腔・顎顔面・頭頸部

- A 口腔
 - a 口腔前庭
 - b 固有口腔
 - c 口蓋
 - d 舌
 - e 頬
 - f 口唇
 - g 口峽
- B 唾液腺
 - a 耳下腺
 - b 顎下腺
 - c 舌下腺
 - d 小唾液腺
- C 咽頭
- D 喉頭
- E 顎関節
 - a 骨部
 - b 関節円板
 - c 関節包・靭帯
- F 頭頸部の筋
 - a 表情筋
 - b 咀嚼筋
 - c 舌筋
 - d 舌骨上筋群・舌骨下筋群
 - e 頸部の筋
- G 頭頸部の脈管
 - a 動脈系（外頸動脈、顎動脈、顔面動脈、舌動脈を含む）
 - b 静脈系
 - c リンパ系
- H 脳神経
 - a 三叉神経
 - b 顔面神経
 - c 舌咽神経
 - d 迷走神経
 - e 舌下神経
- I 頭頸部の自律神経と自律神経節

2 歯と歯周組織

- A 歯の形態
- B 歯・歯周組織の構造
 - a エナメル質
 - b 象牙質
 - c 歯髄
 - d セメント質
 - e 歯根膜
 - f 歯槽骨
 - g 歯肉
- C 歯種・歯式

- D 歯列・咬合

3 口腔と顎顔面の発生

- A 鰓弓の形成
- B 顎、顔面、口腔の発生
 - a 顔面
 - b 顎・口蓋
 - c 舌
 - d 唾液腺
 - e 顎関節
- C 歯・歯周組織の発生

II 歯・口腔の機能・組成

1 歯・歯周組織

- A 歯の組成
 - a 歯の無機成分（ヒドロキシアパタイトを含む）
 - b 歯の有機成分
 - c 歯の石灰化
 - d 歯の脱灰と再石灰化
- B 歯の生理
- C 歯周組織の組成（コラーゲンを含む）
- D 歯周組織の生理

2 顎・口腔

- A 口腔粘膜の感覚（温度感覚、痛覚を含む）
- B 味覚
- C 唾液腺
 - a 唾液の成分と作用
 - b 唾液分泌の調節
- D 咀嚼運動と顎反射
- E 摂食・嚥下
- F 吸啜
- G 嘔吐
- H 発声・構音

三 疾病の成り立ち及び回復過程の促進

出題方針：①病因と病態、感染と免疫、生体と薬物に関する基本的知識について出題する（病理学分野、微生物学分野、薬理学分野）。

②口腔領域の先天異常、嚢胞及び腫瘍は「臨床歯科医学」においても出題する。

③歯科臨床に用いる薬剤は「臨床歯科医学」、「歯科診療補助論」において出題する。

I 病因と病態

1 病因論

- A 内因
- B 外因

2 遺伝性疾患と先天異常

- A 染色体異常
- B 先天異常

3 循環障害

- A 全身の循環障害
- B 局所の循環障害
 - a 循環血液量の障害
 - b 閉塞性の障害

4 細胞・組織の傷害

- A 変性
- B 萎縮
- C 壊死（ネクロシス）
- D アポトーシス

5 増殖と修復

- A 肥大と増生（過形成）
- B 化生
- C 再生
- D 創傷の治癒と異物の処理
- E 肉芽組織と器質化

6 炎症

- A 炎症の概念と徴候
- B 炎症の原因
- C 炎症の機序と病態
- D 炎症の分類
 - a 急性炎症
 - b 慢性炎症
 - c 肉芽腫性炎

7 免疫異常と移植

- A アレルギー
- B 自己免疫疾患
- C 免疫不全症候群
- D 移植免疫

8 腫瘍

- A 腫瘍の概念と疫学
- B 腫瘍の原因と発生・進展の機序
- C 腫瘍の組織学的特徴
- D 腫瘍の分類
 - a 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍
 - b 良性腫瘍と悪性腫瘍
 - c 前癌病変

9 歯の発育異常

- A 大きさの異常
- B 形の異常
- C 数の異常
- D 構造の異常
- E 色の異常
- F 萌出の異常

10 う蝕

- A エナメル質う蝕
- B 象牙質う蝕
- C セメント質う蝕

11 象牙質、セメント質の増生

- A 第二象牙質
 - a 生理的 second dentin
 - b 病的 second dentin（第三象牙質）
- B 象牙粒
- C セメント質増生とセメント粒

12 歯髄の病変

- A 歯髄充血
- B 歯髄の変性
- C 歯髄壊死
- D 歯髄炎の分類と特徴
 - a 急性漿液性歯髄炎
 - b 急性化膿性歯髄炎
 - c 慢性潰瘍性歯髄炎
 - d 慢性増殖性歯髄炎
 - e 上行性歯髄炎
- E 歯髄壊疽

13 根尖部歯周組織の病変

- A 根尖性歯周炎の分類と特徴
 - a 急性根尖性歯周炎
 - b 慢性根尖性歯周炎

14 歯周組織の病変

- A 歯周病の分類と特徴
 - a 歯肉病変
 - b 歯周炎
 - c 壊死性歯周疾患
 - d 歯周組織の膿瘍
 - e 歯周一歯内病変
 - f 歯肉退縮
 - g 咬合性外傷

15 口腔創傷の治癒

- A 口腔粘膜傷の治癒
- B 抜歯創の治癒

16 歯・口腔の嚢胞と腫瘍

- A 歯源性嚢胞
 - a 歯根嚢胞
 - b 含歯性嚢胞
- B 非歯源性嚢胞
 - a 粘液嚢胞
 - b 術後性上顎嚢胞
- C 歯源性腫瘍

- a エナメル上皮腫
- b 歯牙腫
- D 非歯原性腫瘍
- E 唾液腺腫瘍
 - a 多形腺腫

II 感染と免疫

1 一般性状

- A 細菌
 - a 形態
 - b 構造
 - c 代謝
 - d 増殖
- B ウイルス
 - a 構造
 - b 増殖

2 観察方法

- A 培養法
 - a 細菌の培養法
 - b 細菌の培地
 - c ウイルスの培養法
- B 細菌の顕微鏡観察法

3 感染

- A 微生物の病原性
 - a 毒素
 - b 菌体表層物質
 - c 組織破壊酵素
 - d 内因性及び外因性感染
- B 宿主の抵抗性
 - a 体液中の抗菌物質
 - b 食細胞
 - c 炎症反応
- C 感染の成立
 - a 感染と発症
 - b 不顕性感染
- D 感染経路
 - a 直接感染
 - b 間接感染
- E 感染の種類
 - a 日和見感染
 - b 内因感染
 - c 院内感染

4 免疫

- A 免疫の種類
 - a 自然免疫
 - b 獲得免疫（体液性免疫、細胞性免疫を含む）
 - c 能動免疫
 - d 受動免疫
 - e 自己免疫（免疫寛容）
 - f 免疫不全
 - g 移植免疫
- B 免疫機構
 - a 免疫関連臓器
 - b 免疫担当細胞
 - c 抗原
 - d 抗体

- e サイトカイン
- C 抗原抗体反応
 - a 凝集反応
 - b 沈降反応
 - c 補体結合反応
 - d 毒素中和反応
 - e ウイルス中和反応
- D アレルギー
- E 補体

5 化学療法

- A 化学療法薬
 - a 作用機序
 - b 抗菌スペクトル
 - c 薬剤耐性
 - d 副作用
 - e ウイルスに対する化学療法

6 病原微生物とプリオン

- A グラム陽性球菌
- B グラム陰性球菌
- C グラム陽性桿菌
- D グラム陰性桿菌
- E スピロヘータ
- F リケッチア
- G クラミジア
- H ウイルス
 - a DNAウイルス
 - b RNAウイルス
- I 真菌
- J 原虫
- K プリオン

7 口腔環境と常在微生物

- A 微生物と口腔環境
 - a 唾液
 - b 歯肉溝液
- B 口腔常在微生物
 - a 口腔内レンサ球菌
 - b 歯垢微生物叢
 - c 唾液微生物叢
 - d 舌微生物叢
 - e 口腔粘膜微生物叢
 - f 歯肉溝微生物叢

8 バイオフィームとしてのプラーク（歯垢）

- A 形成機序
- B バイオフィームとバイオフィーム感染症

9 消毒・滅菌（具体的方法は歯科診療補助論で出題する）

- A 定義
- B 消毒法
- C 滅菌法

10 う蝕

- A う蝕原因菌

11 歯周病

- A 歯周病原菌

III 生体と薬物

1 医療と薬物

- A 薬物療法の種類
- B 薬理作用の基本形式
- C 薬理作用の分類

2 身体と薬物

- A 薬物の作用機序
- B 薬物の適用方法
- C 薬物動態
 - a 吸収
 - b 分布
 - c 代謝
 - d 排泄
 - e 薬物動態パラメーター（生物学的半減期、バイオアベイラビリティ（生物学的利用能）、クリアランスを含む）
- D 薬理作用に影響を与える因子（プラセボ効果を含む）
 - a 薬物の用量と作用
 - b 生体の感受性（年齢、遺伝的素因等）
- E 薬物の併用による相互作用
 - a 協力作用・拮抗作用
- F 薬物の連用
 - a 蓄積
 - b 耐性
 - c 依存
- G ライフステージと薬物
 - a 小児への薬物投与
 - b 高齢者への薬物投与
 - c 妊婦への薬物投与
- H 薬物の副作用・有害作用

3 医薬品の分類

- A 薬事法
- B 日本薬局方及び局方薬
- C 毒薬・劇薬
- D 麻薬、向精神薬、覚せい剤
- E 医薬部外品、化粧品

4 薬物の取扱い

- A 処方せん（箋）
- B 配合変化
- C 保存方法
- D 剤形

5 中枢神経系作用薬物

- A 全身麻酔薬
 - a 吸入麻酔薬
 - b 静脈麻酔薬
- B 催眠薬
- C 向精神薬
 - a 抗精神病薬
 - b 抗不安薬
 - c 抗うつ薬・抗躁薬
- D 抗けいれん薬（抗てんかん薬）
- E 抗パーキンソン病薬
- F 中枢神経興奮薬

6 末梢神経系作用薬物

- A 神経伝達物質
- B 自律神経系作用薬

7 局所麻酔薬

- A 局所麻酔薬
- B 血管収縮薬の添加

8 痛みと薬物

- A 鎮痛薬
 - a 麻薬性鎮痛薬
 - b 非麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗薬
 - c 解熱性鎮痛薬

9 抗炎症薬

- A ステロイド性抗炎症薬
- B 非ステロイド性抗炎症薬
- C 抗ヒスタミン薬

10 呼吸・循環と薬物

- A 呼吸器系作用薬
- B 循環器系作用薬

11 血液と薬物

- A 局所性止血薬
- B 全身性止血薬
- C 抗凝固薬（血液凝固阻止薬）

12 感染と薬物

- A 消毒薬
- B 抗菌薬（抗真菌薬・抗ウイルス薬を含む）

四 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み

- 出題方針：①歯と口腔の疾病異常の予防及び健康増進、疫学と歯科保健統計並びに地域歯科保健活動に関する知識について出題する（口腔衛生学分野）。
- ②人々をとりまく環境下で、また、社会生活・社会制度の下で、健康を保持増進するために必要な事項に関する知識について出題する（衛生学・公衆衛生学分野）。
- ③歯科衛生士として必要となる保健・医療・福祉の関連法規と制度について出題する（衛生行政・社会福祉分野）。
- ④食生活と食生活指導に必要な基本的知識について出題する（栄養学分野）。

I 総論

1 概要

- A 口腔保健と健康
- B 歯科疾患の予防

2 歯・口腔の機能

- A 咀嚼
- B 摂食・嚥下
- C 発声・構音
- D 味覚、触覚、冷温覚

3 歯・口腔の発育と変化

- A 歯・口腔の発生と成長・発育
 - a 歯の形成
 - b 歯の萌出、交換
- B 歯の喪失

4 口腔環境

- A 歯と口腔環境
 - a 唾液の作用
 - b ペリクルの形成
 - c エナメル質の成熟
 - d 口腔内常在微生物

5 歯・口腔の付着物、沈着物

- A 歯の付着物、沈着物
 - a プラーク（歯垢）
 - b 食物残渣
 - c マテリアアルバ（白質）
 - d 歯石
 - e 着色性沈着物
- B 舌苔

II 口腔清掃

1 概要

- A プラークコントロールの意義
- B 口腔清掃の種類
 - a 口腔の自浄作用（自然的清掃法）
 - b 機械的清掃法（人工的清掃法）
 - c 専門家による清掃法
 - d 化学的清掃法

2 口腔清掃用具

- A 歯ブラシの構成と種類
- B 歯間部清掃用具
- C その他の清掃用具

3 歯磨剤・洗口剤

- A 薬事法による分類
- B 組成と配合目的
- C 薬効（薬用、有効、特殊）成分

4 ブラッシング（具体的な方法や術式等は歯科保健指導論で出題する）

- A ブラッシングの方法と特徴
- B ブラッシングの有害作用
- C 歯垢染色剤
- D 舌清掃の方法

III う蝕の予防

1 基礎知識

- A う蝕の有病状況
- B う蝕の発生要因と機序
- C 初期う蝕と再石灰化
- D う蝕の進行と特徴
- E う蝕のリスク評価
 - a う蝕の活動性
 - b う蝕活動性試験

2 予防方法

- A 第一次予防
 - a プラークコントロール
 - b 甘味飲食物に対する予防
 - c 生活習慣の改善
 - d フッ化物の応用
 - e う蝕予防処置（術式は歯科予防処置論で出題する）
 - f 歯・口腔の健康診査、保健指導、リコール
- B 第二次予防
 - a う蝕の検診とリスクスクリーニング
 - b 初期う蝕の進行抑制
 - c う蝕の治療
- C 第三次予防
 - a 形態と機能の回復
- D セルフケア、プロフェッショナルケア、パブリックヘルスケアによるう蝕予防

3 フッ化物によるう蝕予防

- A フッ化物の分布
- B フッ化物の摂取と代謝
- C フッ化物の毒性
- D う蝕予防機序
- E う蝕予防への応用
 - a 水道水フッ化物濃度調整
 - b 飲食物へのフッ化物添加
 - c フッ化物補充剤（錠剤、液剤）
 - d フッ化物配合歯磨剤

- e フッ化物洗口
 - f フッ化物歯面塗布
- E う蝕予防効果(う蝕予防率の求め方についても出題する)

IV 歯周病の予防

1 基礎知識

- A 歯周病の有病状況
- B 歯周病の分類
- C 歯周病の発主要因と機序
- D 歯周病の進行と特徴
- E 歯周病のリスク評価
- F 歯周病と全身疾患

2 予防方法

- A 第一次予防
 - a ブラークコントロール
 - b 予防処置(術式は歯科予防処置論で出題する)
 - c 歯・口腔の健康診査、保健指導、リコール
- B 第二次予防
 - a 歯周病の検診とスクリーニングテスト
 - b 歯周病の初期治療
 - c 不適切な修復物の改善
 - d 不正咬合の改善
 - e 歯周病の治療
- C 第三次予防
 - a 咬合機能の回復
- D セルフケア、プロフェッショナルケア、パブリックヘルスケアによる歯周病予防

V その他の歯科疾患の予防

1 口臭の予防

- A 口臭の原因と分類
- B 口臭の検査
- C 口臭の予防方法

2 不正咬合の予防

- A 不正咬合の原因と種類
- B 不正咬合の影響
- C 不正咬合の予防方法

3 他の歯科疾患の予防

- A 顎関節症
- B 酸蝕症
- C 口腔癌
- D 着色・変色歯
- E 口腔外傷
- F その他の歯科疾患・異常(歯の形成不全、口内炎、口腔乾燥症についても出題する)

VI 歯科疾患の疫学と歯科保健統計

1 歯科疾患の指標

- A う蝕に関する指標
 - a う蝕経験の指標

- b その他の指標
- B 歯周病に関する指標
- C 口腔清掃状態に関する指標
- D 歯のフッ素症に関する指標
- E 不正咬合に関する指標

2 歯科疾患の疫学

- A う蝕の疫学
 - a 宿主要因との関連
 - b 環境要因との関連
 - c 病因との関連
 - d 時間要因との関連
 - e 介入研究における予防効果
- B 歯周病の疫学
 - a 宿主要因との関連
 - b 環境要因との関連
 - c 病因との関連
 - d 時間要因との関連
- C 口腔の悪性新生物の疫学(発生率、生存率、死亡率を含む)

3 衛生統計の基礎

- A 疫学調査の進め方
 - a 母集団と標本
 - b 標本調査
 - c スクリーニング検査
- B データのまとめ方
 - a データの尺度
 - b 代表値とバラツキ
 - c 度数分布
 - d 単純集計、クロス集計
- C データの分析法
 - a 相関分析
 - b 母平均の推定
 - c 標本平均値の差の検定
 - d カイ二乗検定

4 歯科保健統計(歯科保健に関する調査について出題する)

- A 国家統計調査の種類
- B 歯科疾患実態調査
- C 国民健康・栄養調査
- D 学校保健統計調査
- E 患者調査

VII 地域歯科保健活動

1 基礎知識

- A 地域口腔保健活動の意義
- B ライフステージ別の口腔保健の課題
- C 地域口腔保健活動の進め方
- D 口腔保健活動の目標
- E 対象と活動分野
- F 口腔保健教育
- G 歯・口腔の健康診査と事後措置
- H 地域特性の把握
- I ヘルスプロモーション

J 歯科衛生士の役割

2 地域歯科保健

- A 市町村と都道府県の歯科保健業務
- B 保健所の歯科保健業務
- C 保健所と市町村との連携
- D 8020 運動
- E 健康日本 21、健康増進法（歯の健康に関連する項目について出題する）

3 母子歯科保健

- A 母子歯科保健の意義
- B 妊産婦の口腔保健
- C 乳幼児の口腔保健
- D 妊産婦・乳幼児の歯科健康診査と保健指導
- E 1歳6か月児歯科健康診査と保健指導
- F 3歳児歯科健康診査と保健指導

4 学校歯科保健（特別支援教育での保健指導を含む）

- A 歯・口腔の保健教育と保健指導
- B 歯・口腔の健康診断と事後措置
- C 学校歯科医

5 産業歯科保健〈職域口腔保健〉

- A 職業性歯科疾患
- B 産業歯科保健活動
 - a 産業歯科医
 - b 歯科健康診断
- C 職域での口腔保健管理

6 成人・高齢者・要介護者・障害者歯科保健

- A 成人・高齢者の歯科保健に関連する法律等に基づく保健事業
 - a 口腔の健康教育
 - b 口腔の健康相談
 - c 歯周疾患検診
 - d 特定高齢者への介護予防
 - e 口腔保健に関する訪問指導（居宅療養管理指導を含む）
- B 要介護者・障害者への歯科保健（介護保険法、介護予防を含む）

VIII 環境・社会と健康

1 概要

- A 健康の概念と保持増進、科学的思考の基盤
- B 予防の考え方と適用（第一次予防、第二次予防、第三次予防の内容と適用を含む）
- C 生涯を通じた保健・福祉
 - a 生活習慣と健康・長寿
 - b ヘルスプロモーション
 - c QOL〈生活の質〉
- D 健康づくり運動の変遷と現状

2 人口

- A 人口静態統計
- B 人口動態統計

C 平均余命、平均寿命、健康寿命

3 環境と健康

- A 地球環境と健康
- B 生活環境と健康
 - a 空気と水
 - b 温熱環境及び気候
 - c 環境適応と住環境
- C 放射線
- C 環境保全・公害防止
- D 廃棄物処理

4 疫学

- A 疫学の定義
- B 疾病・異常の発生要因
- C 健康・疾病・異常の指標
- D 疫学の研究方法
 - a 記述疫学
 - b 分析疫学
 - c 介入研究

5 感染症

- A 感染症の成り立ちと予防
 - a 感染源、感染経路、宿主の感受性
 - b 感染源対策、感染経路対策、感受性対策
- B 主要感染症の動向と予防
- C 院内感染とその防止

6 生活習慣と生活習慣病

- A ライフスタイル
- B 生活習慣病の種類
 - a 悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病
- C 生活習慣病の予防

7 食品と健康

- A 食中毒とその予防

8 地域保健

- A 地域社会と地域保健
- B 地域保健の対象と活動
- C 地域保健の組織と役割
- D 保健所
- E 市町村保健センター
- F 医療圏と保健医療計画
- G 地域保健活動の進め方

9 母子保健

- A 母子保健の意義と特徴
- B 母子保健活動の現状
- C 母子保健対策
 - a 母子健康手帳
 - b 母子健康教育
 - c 健康診査と保健指導

10 学校保健

- A 学校保健安全の意義と特徴
- B 保健教育、保健管理、組織活動

- C 学校保健活動の現状
- D 学校保健安全対策

11 成人・高齢者保健

- A 成人・高齢者保健の意義と特徴
- B 成人・高齢者保健活動の現状
- C 成人保健対策
 - a 特定健康診査・特定保健指導
 - b 健康教育・健康相談など
- D 高齢者保健福祉対策
- E 要介護者保健福祉対策

12 産業保健

- A 産業保健の意義と特徴
- B 保健管理体制と作業管理、作業環境管理、健康管理
- C 産業保健活動の現状
- D 産業保健対策
 - a 一般健康診査と事後措置
 - b 特殊健康診査と事後措置
 - c 健康保持増進対策(トータルヘルスプロモーションについても出題する)

13 精神保健

- A 精神保健の意義
- B 精神保健活動の現状

Ⅸ 保健・医療・福祉の制度

1 概要

- A 衛生行政の目的
- B 衛生行政の組織

2 法規

- A 法の分類
- B 歯科衛生士法
- C 歯科医師法
- D 歯科技工士法
- E 関連する医療関係者の身分に関する法規
- F 医療に関する法規
- G 薬事に関する法規
- H 地域保健に関する法規
 - a 地域保健法
 - b 健康増進法
 - c 母子保健法
 - d 学校保健安全法
 - e 労働安全衛生法
 - f 高齢者の医療の確保に関する法律

3 現況

- A 国民の健康状態と受療状況
- B 医療施設
- C 医療従事者
- D 国民医療費

4 社会保障制度

- A わが国の社会保障制度

5 社会保険

- A 社会保険行政
- B 医療保険制度と法規
- C 年金制度と法規
- D 雇用保険及び労働者災害補償保険制度と法規
- E 介護保険制度と法規

6 社会福祉

- A 社会福祉行政
- B 生活保護制度と法規
- C 児童と家庭の福祉制度と法規
- D 障害者の福祉制度と法規
 - a 障害者の自立支援
- E 高齢者の福祉制度

X 栄養・食生活の基礎

1 栄養素

- A 五大栄養素
- B 糖質の種類と働き
- C タンパク質の種類と働き
- D 脂質の種類と働き
- E ビタミンの種類、働き、欠乏症
- F 無機質の種類と働き
 - a ナトリウムとカリウム

2 食品

- A 食品成分表
- B 食品群
 - a 三分類
 - b 四分類
 - c 六分類
- C 植物性食品と動物性食品
- D 保健機能食品
 - a 特定保健用食品(栄養機能食品と特別用途食品を含む)
- E 食品添加物

3 歯・口腔と栄養

- A 歯の発育に必要な栄養素
- B う蝕と食品(人工甘味料を含む)
- C 歯周病と食品
- D 口腔疾患とビタミン

4 食生活の概要(授乳、離乳、間食、味覚、咀嚼等の食習慣の発達と食習慣形成、健康や異常の発生に結びつく食習慣については歯科保健指導論で出題する)

- A 食生活と健康との関連
- B 国民健康・栄養調査
 - a 国民栄養の現状と課題
 - b 近年の食行動の特徴

5 食生活指導

- A 食育と食育基本法
- B 日本人の食事摂取基準
- C 食生活指針
 - a 生活習慣病予防のための食生活指針(日本人の食

生活指針を含む)

b 食事バランスガイド

D 特別な支援が必要な者への食事指導(摂食機能に合わせた食事の調理形態についても出題する)

a 障害者

b 要介護者

c 摂食・嚥下障害

五 歯科衛生士概論

出題方針:①歯科衛生士が業務を行うために必要な業務内容、倫理、チーム医療、保健・医療・福祉との連携について出題する。

I 歯科衛生士とその業務

1 概要

- A 歯科衛生士の歴史
- B 歯科衛生業務の内容
 - a 歯科予防処置
 - b 歯科保健指導
 - c 歯科診療補助
- C 歯科衛生士の養成状況
- D 歯科衛生士の就業状況

2 歯科衛生業務（インフォームド・コンセント、インフォームド・チョイス、セカンド・オピニオンを含む）

- A 医療倫理
- B コミュニケーション
 - a 言語的コミュニケーション
 - b 非言語的コミュニケーション
- C 歯科衛生業務のプロセス
 - a 情報収集
 - b 問題整理と計画立案
 - c 実践と評価
- D 業務記録（POS、SOAPを含む）
- E 医療安全管理（インシデント、アクシデントとその対応を含む）

3 チーム医療

- A 多職種との連携
 - a チーム歯科医療
 - b 保健・医療・福祉専門職の業務
 - c 他職種との連携

六 臨床歯科医学

出題方針:①歯科衛生士が業務を行うために必要な歯科臨床に関する基本的知識について出題する(歯科保存学、歯科補綴学、口腔外科学、矯正歯科学、小児歯科学、高齢者歯科学及び障害者歯科学分野)。

②歯科診療における共同動作に関連する事項は「歯科診療補助論」において出題する。

③病因論等の歯科医学に関する知識については「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」及び「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」においても出題する。

I 歯科臨床の基礎

1 全身疾患と歯科治療

- A 医療情報の収集
 - a 医療面接
 - b 紹介状
- B 全身疾患
 - a 主な全身疾患
 - b 状態把握
 - c 偶発症状の予防
 - d バイタルサインとモニター監視

2 口腔の一般検査

- A 検査用器具の種類と使用方法
- B 各種検査情報と治療(う蝕、歯髄、口腔清掃状態検査等の口腔領域の検査について出題する)

3 画像検査(放射線防護、フィルム取扱、保管は歯科診療補助論で出題する)

- A 放射線の基礎知識
 - a 放射線とその性質
 - b 放射線の人体への影響と防御
- B エックス線画像の形成
 - a エックス線フィルムと増感紙
 - b デジタル画像
- C エックス線撮影
 - a 口内法エックス線撮影
 - b パノラマエックス線撮影
 - c 頭部エックス線規格写真
 - d CT
- D MRI・超音波検査

4 臨床検査

- A 検査の目的
- B 検査の倫理と安全
- C 生体検査の種類と検査値の評価
 - a 体温、脈拍、血圧
 - b 心電図、筋電図
 - c 摂食・嚥下機能検査
- D 検体検査の種類と検査値の評価
 - a 血液検査
 - b 血液凝固検査

- c 生化学・免疫血清学的検査
- d 微生物学検査
- e 病理組織学的検査
- E 口腔領域の検査と検査値の評価
 - a 口臭検査
 - b 味覚検査
 - c 金属アレルギー検査
 - d 唾液検査

5 消毒と滅菌

- A 消毒・滅菌の意義
- B 消毒・滅菌の種類と効能

6 歯科材料・薬物の基礎(個々の歯科材料の性質の取扱い方は歯科診療補助論で出題する)

- A 歯冠修復材料
- B 合着・接着用セメント
- C 義歯用材料
- D インプラント用材料
- E 印象材・模型材・歯科用ワックス
- F 予防填塞用材料
- G 歯内療法用材料
- H 歯科用薬物

II 歯・歯髄・歯周組織の疾患と治療

1 保存修復治療

- A 歯の硬組織疾患の種類と処置法
 - a う蝕の発生とリスクファクター
 - b う蝕以外の硬組織疾患
- B 窩洞の分類
 - a ブラックの分類
 - b その他の分類
- C 窩洞形態の原則
- D 前準備
 - a 防湿法
 - b 歯間分離法
 - c 歯肉排除法
 - d 隔壁法
 - e 除痛法
- E 修復法の種類と特徴(各材料の取扱いは歯科診療補助論で出題する)
 - a 直接修復
 - b 間接修復(ラミネートベニア修復を含む)
 - c 象牙質知覚過敏処置
 - d 歯の漂白法
- F 歯質切削・削除器械と器具(研磨、手用切削器具を含む)
 - a 切削器械・器具の種類と用途(切削器械・器具の管理法は歯科診療補助論で出題する)
 - b その他の歯質削除器械の種類と特徴(レーザー、エアブレイシブ、音波切削、化学的溶解法を含む)
- G 合着・接着剤の種類と特徴(取扱いは歯科診療補助論で出題する)
- H 印象材・模型材の種類と特徴(取扱いは歯科診療補助論で出題する)
- I 硬組織疾患の予防法

J 修復処置後の不快事項とメンテナンス

2 歯内療法

- A 歯髄疾患の種類と病態
- B 根尖性歯周組織疾患の種類と病態
- C 歯内療法の基礎
 - a 除痛法
 - b う窩の開拓
 - c 髄室の開拓
 - d 薬剤の種類と所要性質
 - e 使用器材の種類
- D 歯髄保存療法
 - a 歯髄鎮静療法
 - b 覆髄法（非侵襲性（暫間的）間接覆髄法〈A I P C法〉を含む）
- E 歯髄除去療法
 - a 生活断髄法（生活歯髄切断法）
 - b 抜髄法
- F 根管治療
 - a 根管長測定
 - b 根管の機械的拡大・形成
 - c 根管の化学的拡大・清掃
 - d 根管の洗浄
 - e 根管の消毒
 - f 仮封
- G 根末完成歯の処置
 - a アペキシフィケーション
 - b アペキソゲネーシス
- H 外科的歯内療法（名称、症例及び各療法の目的について出題する）
 - a 膿瘍切開
 - b 根尖搔爬
 - c 根尖切除
 - d 歯根切断
 - e 歯根分離
 - f ヘミセクション
 - g 歯の再植
- I 外傷歯の治療
 - a 歯の破折
 - b 歯の脱臼
- J 歯内療法における安全対策

3 歯周治療（歯周病と全身との関連を含む）

- A 歯周病の種類と病態
- B 歯周病の発現とリスクファクター
- C 歯周病の疫学に用いる指数とその解釈
- D 歯周治療に必要な口腔内検査
 - a プロービングポケットデプス〈PPD〉
 - b アタッチメントレベル
 - c プロービング時の出血〈BOP〉
 - d 口腔清掃状態
 - e 歯肉の診査
 - f 歯の動揺度
 - g 根分岐部病変の診査
 - h 歯周病の画像検査
- E 歯周基本治療
 - a プラークコントロール

- b スケーリング・ルートプレーニング
- c 暫間固定
- d 咬合調整
- e 習癖の修正

- F 歯周病の薬物療法
- G 歯周外科治療（名称と各療法の目的について出題する）
 - a 歯周ポケット搔爬術
 - b 新付着術〈ENAP〉
 - c 歯肉切除術
 - d 歯肉剥離搔爬術〈フラップ手術〉
 - e 歯周形成手術〈歯肉歯槽粘膜形成術〉
 - f 歯周組織再生誘導法（GTR法、エムドゲイン[®]ゲルを含む）
- H 固定法
- I 根分岐部病変の治療
- J 歯周治療後の再評価
- K メンテナンス、サポータティブ・ペリオドンタル・セラピー〈SPT〉

III 歯の欠損と治療

1 概要

- A 補綴治療の基礎
 - a 歯列と基準平面
 - b 咬合様式・咬合
 - c 咀嚼・発音・構音
 - d 顎堤・粘膜・舌・唾液
 - e 下顎運動と下顎位
 - f 歯の喪失に伴う変化
- B 補綴治療の種類と材料
 - a 床義歯〈全部床義歯・部分床義歯〉
 - b クラウン・ブリッジ
 - c インプラント義歯
- C 補綴装置の維持・支持・安定
- D 治療の流れ
 - a 印象採得
 - b 咬合採得
 - c 試適
 - d 咬合器
 - e 装着

2 床義歯

- A 義歯床
- B 人工歯
- C 支台装置（維持装置）
 - a クラスプ
 - b アタッチメント
- D 連結装置
 - a 大連結装置〈リングルバー・パラタルバー〉
 - b 小連結装置
- E メンテナンスと修理（取扱い方法とリライニングを含む）

3 クラウン

- A 全部被覆冠
 - a 全部鑄造冠

- b ポーセレンジャケット冠
- c レジンジャケット冠
- d 陶材焼付鑄造冠
- e レジン前装鑄造冠
- B 一部被覆冠
 - a 3/4 クラウン・4/5 クラウン
 - b アンレー
- C 支台〈コア〉築造
 - a メタルコア
 - b レジンコア
 - c その他のコア

4 ブリッジ

- A ブリッジの特徴
- B ブリッジの構成
 - a ポンティック
 - b 支台装置〈維持装置〉
 - c 連結部
- C メインテナンス

5 インプラント義歯

- A 概要
- B 利点と欠点

IV 顎・口腔領域の疾患と治療

1 対象疾患

- A 先天異常と発育異常
 - a 歯と口腔軟組織の異常
 - b (口)唇裂、(口)蓋裂
 - c 顎変形症
- B 損傷
 - a 歯の外傷
 - b 軟組織の損傷
 - c 歯槽骨骨折
 - d 顎骨骨折
- C 口腔粘膜疾患
 - a 潰瘍を主徴とする疾患
 - b 水疱形成を主徴とする疾患
 - c 紅斑・びらんを主徴とする疾患
 - d 白斑を主徴とする疾患
 - e 色素沈着
 - f 口腔乾燥
- D 炎症
 - a 歯槽部の炎症 (ドライソケットを含む)
 - b 顎骨の炎症
 - c 顎骨周囲組織の炎症 (上顎洞炎を含む)
- E 嚢胞
 - a 顎骨に発生する嚢胞
 - b 軟組織に発生する嚢胞
- F 腫瘍及び腫瘍類似疾患
 - a 良性腫瘍
 - b 悪性腫瘍
 - c 腫瘍類似疾患
- G 顎関節疾患
 - a 顎関節脱臼
 - b 顎関節症

- c 顎関節強直症
- H 唾液腺疾患
 - a 唾液腺炎
 - b 流行性耳下腺炎
 - c 唾石症
 - d 唾液腺腫瘍
- I 神経系疾患
 - a 三叉神経痛
 - b 三叉神経麻痺
 - c 顔面神経麻痺
 - d 舌痛症
 - e オーラルディスキネジア
- J 血液疾患
 - a 貧血
 - b 白血病
 - c 血友病
 - d 特発性血小板減少性紫斑病

2 口腔外科治療

- A 抜歯 (埋伏歯の抜歯を含む)
- B 消炎手術
- C 止血処置
- D 歯槽骨整形術
- E 根尖切除術
- F 嚢胞摘出手術・嚢胞開窓手術
- G 歯槽骨骨折手術・顎骨骨折手術
- H 口腔インプラント術
- I 放射線治療
 - a 副作用
 - b 治療患者の口腔保健管理
- J 術後の不快事項
- K 術後の管理

3 麻酔

- A 局所麻酔
 - a 表面麻酔
 - b 浸潤麻酔
 - c 伝達麻酔
- B 精神鎮静法
 - a 吸入鎮静法
 - b 静脈内鎮静法
- C 全身麻酔
 - a 吸入麻酔
 - b 静脈麻酔

4 全身管理とモニタリング

- A バイタルサイン
- B 経皮的動脈血酸素飽和度 (SPO₂)
- C 歯科治療時の不快事項
 - a 神経性ショック
 - b 過換気症候群

5 救命救急処置

- A 一時救命処置
- B 二次救命処置

V 不正咬合と治療

1 概要

- A 顎顔面の成長発育
 - a 顎の成長発育
 - b 顔面の成長発育
- B 正常咬合
 - a 成立の条件と種類
- C 不正咬合
 - a 歯の位置の異常
 - b 歯列弓形態の異常
 - c 上下歯列弓関係の異常
 - d 不正咬合の分類
 - e 不正咬合の原因
 - f 不正咬合の予防
- D 不正咬合による障害
 - a 生理的障害
 - b 心理的障害

2 矯正歯科治療の流れ

- A 診断手順
 - a 検査資料
 - b 症例分析
- B 矯正歯科治療
 - a 適切な矯正力（顎整形力についても出題する）
 - b 歯の移動方法
 - c 歯の移動に伴う組織変化
- C 固定
- D 保定

3 矯正歯科治療の実際

- A 治療用器具・材料
 - a プライヤー（鉗子）
 - b 材料
- B 矯正装置の種類
 - a 舌側弧線装置
 - b マルチブラケット装置
 - c 顎外固定装置（上顎外固定装置、上顎前方牽引装置、オトガイ帽装置について出題する）
 - d 床矯正装置
 - e 機能的矯正装置
 - f 歯列弓拡大装置
 - g 保定装置
- C 矯正歯科治療の不快事項

VI 小児の理解と歯科治療

1 概要

- A 小児の成長発育
 - a 成長発育の特徴
 - b 小児期の分類
 - c 身体の発育（発育状態の評価を含む）
 - d 生理的年齢
 - e 器官の発育形式
- B 小児の機能の発達
 - a 運動機能
 - b 感覚機能
 - c 音声言語機能

- d 摂食・嚥下機能（哺乳機能を含む）
- C 情緒・社会性の発達
- D バイタルサインと生理的特徴
- E 顎顔面と頭蓋の成長発育
- F 歯の形成
- G 歯の萌出・交換
- H 歯列、咬合の発育
- I 乳歯、幼若永久歯の特徴
 - a 乳歯の特徴
 - b 幼若永久歯の特徴

2 小児の疾病異常

- A 先天性疾患、先天異常（（口）唇裂、口蓋裂、外胚葉異形成症、鎖骨頭蓋異骨症を含む）
- B 歯・口腔・顎疾患
 - a 感染症疾患
 - b 歯の異常と疾患
 - c 乳歯、幼若永久歯のう蝕
 - d 乳歯、幼若永久歯の歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患
 - e 歯周病
 - f 軟組織疾患
 - g 外傷

3 小児歯科患者の評価と対応

- A 行動と特徴
- B 情動変化
- C 障害児の特徴と評価

4 小児の歯科治療

- A 検査
- B 薬物投与
- C 応急処置
- D 歯冠修復処置
- E 歯内療法処置
- F 歯周病の処置
- G 口腔外科処置
- H 外傷の処置
- I 咬合誘導
 - a 保隙
 - b 能動的咬合誘導
 - c 口腔習癖への対応
- J 口腔管理

VII 高齢者の理解と歯科治療

1 高齢社会

- A 社会環境
 - a 人口の推移（老年人口割合等）
 - b 死亡原因
 - c ノーマライゼーション
 - d 高齢者のQOL
- B 高齢者のための社会保障制度

2 加齢変化

- A 生物学的加齢変化と病的加齢変化
- B 各器官、各組織の老化

- C 身体機能の老化
- D 精神・心理的变化(知的機能の変化、認知機能障害を含む)
- E 口腔領域の加齢変化
 - a 歯
 - b 口腔粘膜と歯周組織
 - c 唾液腺と唾液分泌
 - d 口腔感覚

3 高齢者の歯科治療

- A 患者本人と取り巻く環境の把握(紹介状・医療情報・プロブレムリストを含む)
 - a 生活環境
 - b 全身状態
 - c 精神・心理的状況
 - d 通院条件
- B 治療方針の把握
 - a 設定された治療目標
 - b 患者指導
 - c メインテナンス

4 通院困難者への対応

- A 歯科訪問診療
 - a 要介護高齢者
 - b 在宅患者の治療
 - c 入院患者の治療
 - d 訪問診療用器材
 - e 多職種連携
- B 口腔機能管理(口腔ケアを含む)
 - a 口腔保健指導
 - b 口腔機能の維持・向上
 - c 介護予防
 - d 多職種連携
- C 栄養管理

5 高齢者の摂食・嚥下とリハビリテーション

- A 摂食・嚥下機能のメカニズム
- B 摂食・嚥下リハビリテーション
 - a 検査と評価
 - b 間接訓練と直接訓練
 - c 歯科衛生士の役割
 - d 多職種連携(NSTを含む)
- C 誤嚥性肺炎
 - a 原因
 - b 経鼻経管栄養と胃瘻
 - c 口腔ケアの意義

VIII 障害者の理解と歯科治療

1 基礎知識

- A 障害の概念
 - a ノーマライゼーション
 - b バリアフリー
 - c ICF(国際生活機能分類)
 - d QOL
 - e 障害のある人の医療制度
 - f 障害のある人の福祉制度

2 障害の種類と歯科的特徴

- A 精神発達・心理的発達と行動障害
 - a 精神遅滞(知的障害)
 - b 自閉性障害(広汎性発達障害)
 - c 強度行動障害
 - d 注意欠陥多動性障害(ADHD)
 - e 学習障害(LD)
- B 神経・運動障害
 - a 脳性麻痺
 - b 重症心身障害
 - c 筋ジストロフィー
 - d 脊髄損傷
 - e 関節リュウマチ
 - f 脳血管障害
 - g 筋萎縮性側索硬化症(ALS)
- C 感覚障害
 - a 視覚障害
 - b 聴覚障害
 - c 平衡障害
 - d 味覚障害
- D 音声言語障害
- E 精神及び行動の障害
 - a 統合失調症
 - b うつ病
 - c 心身症
 - d 認知症
- F 摂食・嚥下障害

3 障害者の歯科治療

- A 行動調整
 - a コミュニケーション法
 - b 行動療法(治療への導入を含む)
 - c 薬物的行動療法
 - d 体動の調整法(治療中の患者のコントロールを含む)
- B 健康支援と口腔管理
 - a 介助者による口腔ケア
 - b 専門的口腔ケア
- C リスク評価と安全管理
 - a リスク評価法
 - b 医療安全管理体制
 - c 常用薬と安全管理

4 障害者の摂食・嚥下障害とリハビリテーション

- A 摂食・嚥下障害と口腔管理
- B 摂食・嚥下障害と栄養管理
- C 摂食・嚥下障害の評価法
- D 機能訓練法
- E 摂食介助法
- F 小児期の評価と対処法
- G 成人期・老年期の評価と対処法
- H 歯科衛生士の役割
- I 多職種連携

七 歯科予防処置論

出題方針：①歯科予防処置に関する知識、技能及び態度について出題する。

I 総論

1 概要

- A 歯科予防処置の内容
- B 対象者の把握（生活習慣と全身状態を含む）

2 基礎知識

- A 歯・口腔の健康状態の把握
 - a 歯
 - b 歯周組織
 - c 歯の付着物・沈着物
 - d 顔面写真・口腔内写真・エックス線写真の観察と評価
 - e 検査結果の評価
- B う蝕予防の基礎（原因、進行を含む）
- C 歯周病予防の基礎（原因、分類、進行を含む）
- D 不快事項の予防

II 歯周病予防処置

1 歯周病の基礎知識

- A 生活習慣の把握
- B 歯周病と全身疾患の関連
- C 歯周病のリスク評価（歯周病に関連する指標を含む）

2 歯・歯周組織の検査

- A プロービング
 - a プロービングに使用する器具と特徴
 - b 操作法
 - c プロービングから得られる情報
- B 動揺度検査
- C コンタクト検査

3 スケーリング・ルートプレーニング

- A 使用器械・器具・材料の種類と操作法
 - a エキスプローラー
 - b 手用スケーラー
 - c 超音波スケーラー
 - d エアスケーラー
 - e 歯面清掃用器具
- B 術式
- C シャープニング

4 歯面清掃・研磨

- A 使用器械・器具・材料の種類と操作法

5 メインテナンス

- A 目的
- B 評価

III う蝕予防処置

1 基礎知識

- A 生活習慣の把握
- B う蝕と全身疾患の関連
- C う蝕予防処置の所要条件
 - a 臨床的効果
 - b 作用機序
 - c 安全性
 - d 便宜性
- D う蝕予防処置の選択

2 う蝕活動性試験

- A 意義と目的
- B 種類と特徴
- C 術式
- D 評価

3 フッ化物歯面塗布法

- A 使用薬剤の種類と取扱い
- B 種類と術式（塗布前後の指導を含む）
 - a 綿球・綿棒塗布法
 - b 歯ブラシ法
 - c トレー法
- C 実施上の注意

4 フッ化物洗口法

- A 使用薬剤の種類と取扱い
- B 対象年齢と洗口方法
- C 実施上の注意

5 小窩裂溝填塞法

- A 填塞材の種類・特徴
- B 適応症
- C 術式（填塞前後の指導を含む）
- D 実施上の注意

6 メインテナンス

- A 目的
- B 評価

八 歯科保健指導論

出題方針：①歯科保健指導に関する知識、技能及び態度について出題する。

I 総論

1 概要

- A 歯科保健指導の意義と目的
 - a 個人と集団
 - b プライマリーヘルスケア
 - c ヘルスプロモーション
 - d ノーマライゼーション

2 生活行動（行動変容を含む）

- A 保健行動
- B セルフケア
- C 食生活
- D 口腔保健に関する情報と収集

II 歯科保健指導の基礎

1 対象把握

- A パーソナリティー
- B 日常生活習慣行動
- C 生活環境
- D 日常生活の自立度
 - a 日常生活動作〈ADL〉
 - b 障害者の日常生活自立度
 - c 認知症患者の日常生活自立度

2 全身状態の把握

- A 全身的な健康状態の把握
 - a 器質的、機能的問題の把握
 - b 虐待との関連

3 歯・口腔状態の把握（歯・口腔の健康状態の把握は歯科予防処置論で出題する）

- A 口腔の観察と評価
 - a 口腔疾患、異常の把握
 - b 口腔清掃状態の把握及び指標
- B 口腔機能
 - a 発声・構音
 - b 味覚・触覚
 - c 唾液の分泌
 - d 摂食・咀嚼・嚥下（機能の発達、スクリーニングテストを含む）
 - e 口腔周囲筋
 - f 加齢による変化

III 口腔清掃指導法

1 基礎知識

- A 口腔清掃用品の種類
 - a 歯ブラシ（電動歯ブラシ、音波ブラシ、超音波歯ブラシを含む）
 - b 歯間部清掃用具
 - c 舌・口腔粘膜の清掃用具
 - d 歯磨剤・洗口剤

2 指導の要点

- A 口腔清掃状態の評価
- B 口腔清掃自立度〈BDR〉
- C 指導法の要点（清掃用具による為害作用を含む）
 - a ブラッシング法の選択
 - b 歯ブラシの選択と使用法
 - c 歯間部清掃用具の選択と使用法
 - d 舌・口腔粘膜清掃用具の選択と使用法
 - e 歯磨剤・洗口剤の選択と使用法
- D 口腔清掃の指導法
 - a う蝕のリスクに応じた指導
 - b 歯周病のリスクに応じた指導
 - c 口臭に関する指導
 - d 口腔乾燥に関する指導
- E 義歯・矯正装置の清掃及び管理（義歯洗浄剤、用具の選択を含む）

3 対象別の指導法

- A ライフステージ別の指導
- B 特別な配慮を要する対象
 - a 妊産婦
 - b 全身疾患を有する者
 - c 障害者・要介護者

IV 生活指導

1 基礎知識

- A 生活習慣の把握
 - a 喫煙習慣
- B 食生活の把握（五大栄養素、食事摂取基準を含む）
 - a 食生活と栄養（食品添加物、栄養機能食品、特定保健用食品、特別用途食品を含む）
 - b 食習慣の把握
 - c 栄養と口腔保健との関連
- C 摂食・嚥下状態の把握
- D 支援のための多職種との連携

2 食生活の指導

- A ライフステージと食育
- B 食育基本法と食生活指針（食事バランスガイドを含む）
- C 生活習慣病と食育
 - a 全身疾患と歯科疾患
 - b メタボリックシンドローム
- D 障害者・要介護者の食事介助（食形態、食事姿勢、嚥下食を含む）

3 口腔機能の維持・向上

- A 口腔機能の現状把握（基本チェックリスト、理学的検査項目を含む）
 - a アセスメント
- B 機能訓練
 - a 口腔周囲筋の運動
 - b 摂食・嚥下機能訓練
- C 専門的口腔ケア

4 生活習慣

- A 禁煙支援

V 歯科衛生教育活動

1 基礎知識

- A 歯科衛生教育活動における歯科衛生士の役割
- B 関連法規

2 保健所、市町村保健センター

- A 地域の特性、ニーズの把握
- B 対象者の把握
- C 歯科衛生教育
 - a 住民
 - b 他の専門職

3 保育所、幼稚園

- A 歯科衛生教育
 - a 乳幼児
 - b 保護者
 - c 保育士、教員等

4 学校

- A 歯科衛生教育
 - a 児童・生徒・学生
 - b 保護者
 - c 教員

5 事業所

- A 事業所の把握
- B 歯科衛生教育
 - a 従業者
 - b 衛生管理者等

6 在宅〔居宅〕、介護・社会福祉施設（地域における口腔保健普及活動及び居宅療養管理指導を含む）

- A 居住環境の把握
- B 歯科衛生教育
 - a 対象者
 - b 家族、介護者
 - c 施設職員
- C 感染予防対策（廃棄物処理を含む）

9 歯科診療補助論

出題方針：①歯科診療補助に関する知識、技能及び態度について出題する。

I 総論

1 概要

- A 歯科診療補助の範囲
- B 歯科衛生士の役割
 - a 患者や保護者に対する説明と指導
 - b 医療書類の管理
- C チーム歯科医療
 - a 歯科医師との協働
 - b 多職種との協働
- D 歯科訪問診療（在宅と施設を含む）

2 患者への対応（治療時の具体的な対応について出題する）

- A 一般的対応
 - a 誘導
 - b 移乗
- B 高齢者への対応
- C 全身疾患を有する患者への対応
- D 特別な配慮を必要とする患者への対応（感染症患者を含む）
- E 通院困難者への対応

3 診療設備

- A 歯科用ユニット
- B エックス線装置
- C 消毒・滅菌器
- D レーザー装置
- E 吸入鎮静器

4 医療安全管理

- A リスクマネジメント
 - a 医療管理従事者としての役割（薬品と医療器材）
- B 感染予防対策
 - a スタンダードプレコーション
- C 医療廃棄物の取扱い（医療廃棄物の定義を含む）
- D 偶発事故の防止と対応（事後報告を含む）
 - a インシデント
 - b アクシデント

5 診療時の共同動作

- A 共同動作の基本
- B 術者・補助者・患者の位置と姿勢（照明やライティングを含む）
- C フォーハンドシステム（器具の受け渡しを含む）
- D バキュームテクニック

5 消毒・滅菌（洗浄も含む）

- A 消毒・滅菌の定義
- B 薬液消毒（在宅診療での器具の取扱いを含む）
 - a 使用薬の種類・用途及び濃度
 - b 消毒薬効果の持続
 - c 手指消毒
- C 滅菌法

- a 高压蒸気滅菌法
 - b エチレンオキシドガス滅菌法
 - c 低温プラズマ滅菌
 - d 乾熱滅菌
- D 消毒・滅菌済み器材の管理

II 主要歯科材料の種類、取扱いと管理

1 模型用材料（基本的性質を含む）

- A 石膏
 - a 種類と用途
 - b 混水比
 - c 各種石膏の取扱いと管理

2 合着・接着材（基本的性質、取扱い及び管理を含む）

- A 合着・接着材の種類と用途
 - a リン酸亜鉛セメント
 - b グラスアイオノマーセメント
 - c カルボキシレートセメント
 - d 接着性レジンセメント

3 印象材（基本的性質、取扱い及び管理を含む）

- A 印象材の種類と用途
 - a アルジネート印象材
 - b 寒天印象材
 - c 合成ゴム質印象材
 - d 酸化亜鉛ユージノールペースト
 - e モデリングコンパウンド

4 歯冠修復材（基本的性質、取扱い及び管理を含む）

- A 歯冠修復材の種類と用途
 - a コンポジットレジン
 - b グラスアイオノマーセメント（強化型グラスアイオノマーセメントを含む）
 - c セラミックインレー

5 仮封材（基本的性質、取扱い及び管理を含む）

- A 仮封材の種類・用途、取扱いと管理
 - a テンポラリーストップピング
 - b セメント系仮封材
 - c 水硬性仮封材
 - d 仮封用軟質レジン
 - e サンダラックアルコール

6 その他の材料（基本的性質を含む）

- A ワックス

III 保存治療時の診療補助

1 前準備

- A 器具・材料と取扱い
 - a 防湿法
 - b 隔壁法
 - c 歯肉排除法
 - d 歯間分離法

2 窩洞形成

- A 切削用器具の種類と用途
- 3 成形修復**
 - A コンポジットレジン修復の器材準備と取扱い
 - a 材料の準備
 - b 填塞用器具の準備
 - c 接着技術
 - d 光照射用器具の取扱い
 - e 研磨
- 4 インレー修復**
 - A インレー修復の器材準備と取扱い
 - a 印象採得・咬合採得
 - b 装着
 - c 後処置（余剰セメントの除去を含む）
- 5 生活歯漂白**
 - A ホワイトニングの準備
 - a ホワイトニング材の準備
- 6 歯髄処置**
 - A 歯髄処置用薬剤・材料の準備と取扱い
 - B 電気歯髄診断器の取扱い
- 7 根管処置**
 - A 根管処置用器材の種類と取扱い
 - B 根管長測定器の取扱い
 - C 根管充填用器材・薬剤の種類と取扱い
- 8 歯周外科治療**
 - A 歯周治療用器具・薬剤の種類と用途
 - B 歯周用パックの種類と取扱い
- IV 補綴治療時の診療補助**
 - 1 検査（咬合音検査、ゴシックアーチ描記法、チェックバイト法、平行測定法を含む）**
 - A 各種検査の準備
 - 2 印象採得**
 - A 印象採得の方法・器材の準備
 - 3 咬合採得（咬合床の取扱い、咬合採得、顔弓操作、咬合器付着を含む）**
 - A 咬合採得の方法・器材の準備
 - 4 補綴装置の合着・装着**
 - A 床義歯装着時の器材と準備
 - B クラウン・ブリッジ合着時の器材準備
- V 口腔外科治療時の診療補助**
 - 1 局所麻酔**
 - A 局所麻酔時の器材準備と取扱い
 - 2 抜歯**
 - A 抜歯用器具・器材準備と取扱い

- 3 小手術**
 - A 小手術用器材準備と取扱い
 - B 縫合用器材の種類と準備・取扱い
- 4 止血処置**
 - A 止血法の種類
 - B 止血薬の種類と取扱い
- 5 鎮静及び全身麻酔（笑気吸入鎮静法の準備、静脈内鎮静法の準備を含む）**
 - A 精神鎮静法の準備と取扱い
 - B 全身麻酔時の器材・薬剤の準備と補助
- VI 矯正歯科治療時の診療補助**
 - 1 器具・材料**
 - A 治療用器材の種類と取扱い
 - 2 検査記録**
 - A 口腔内・顔面写真の撮影
 - B 頭部エックス線規格写真のトレース
 - C 口腔模型の作製
 - 3 装置の装着**
 - A 接着材の種類、用途と取扱い
 - B 帯環（バンド）の種類と取扱い
 - C ワイヤの種類、用途と取扱い
 - D ブラケットの種類、用途と取扱い
 - E 結紮
 - 4 装置の撤去**
 - A 撤去に必要な器具の種類、用途と取扱い
 - B 研磨
- VII 小児歯科治療時の診療補助**
 - 1 小児歯科治療**
 - A 小児・障害児への対応
 - B 必要な器材・薬剤の準備
- VIII 高齢者治療時の診療補助**
 - 1 高齢者歯科治療**
 - A 高齢者への対応
 - B 必要な器材・薬剤の準備
 - C 摂食・嚥下リハビリテーション
- IX 障害者治療時の診療補助**
 - 1 障害者歯科治療**
 - A 障害者への対応
 - a 危険の予測と管理
 - b 治療への導入
 - c 治療中の患者コントロール
 - B 必要な器材・薬剤の準備
 - C 摂食・嚥下リハビリテーション

X エックス線写真撮影時の診療補助

1 器具・材料

- A エックス線写真撮影器機の準備
- B 歯科用・パノラマ用撮影装置、デジタル撮影システム

2 口内法撮影

- A 頭部の固定
- B フィルムの位置・固定
 - a 二等分法と平行法
 - b 咬翼法と咬合法
 - c 正放線投影と偏心投影

3 放射線防護

- A 放射線障害
- B 防護の実際
- C 被曝量の測定

XI 臨床検査法

1 生体検査（検査の概要は臨床歯科医学で出題する）

- A 体温・脈拍・血圧・経皮的動脈血酸素飽和度（S P O₂）の測定

2 検体検査（サンプル採取、抗凝固検査、血液型検査等を出題する）

- A 血液検査

3 口腔領域の臨床検査（検査の概要は臨床歯科医学で出題する）

- A 口臭検査
- B 味覚検査
- C 金属アレルギー検査
- D 唾液検査

XII 救命救急処置

1 救命救急処置

- A バイタルサインの把握
- B 意識レベルの把握
- C モニタリング（血圧・脈拍・呼吸モニターを含む）
- D 一次救命処置（救急蘇生法の基礎知識を出題する）
 - a 気道確保
 - b 人工呼吸
 - c 心マッサージ
- E 二次救命処置
 - a 酸素療法
 - b 静脈路の確保と点滴法
- F A E D の取扱い
- G 神経性ショックとその処置
- H 過換気症候群とその処置
- I アナフィラキシーショックとその処置